



2020年度定期総会を開催

～令和初。思いも新たに新年度の活動へスタートを切る～



認定NPO法人としての2020年度定期総会が3月14日(土)、事務局ビル4階会議室にて開催されました。今回は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大に備え、最少人数での開催とすることを事前に告知したこともあり、役員の出席も理事長、専務理事、副理事長1名のみで、出席正会員もごくわずかとなりました。しかしながら、書面表決及び委任状にて十分定数を満たしており、審議に差し支えは一切ありません。

その上で、2019年度の事業報告・決算報告をはじめ、2020年度の活動方針及び活動計画、活動予算などが審議され、原案通りに承認。あわせて役員の増員について諮ら

れ、湯浅泉管理本部長の就任が承認されました。任期は、現任役員の任期残存期間である1年のみとなりますが、ファンドレイジング担当としての活躍がおおいに期待されています。

以上をもってすべての議案の審議が終了し、新年度の活動が正式にスタートしました。毎年恒例の活動報告会は、COVID-19の影響により中止となったため、ご支援ご協力いただいた企業・団体へは、郵送での感謝状贈呈で御礼に代えることとなりました。

第16回SON・東京夏季地区大会のお知らせ

2020年は2年に一度開催している地区大会の年。今年度は夏季競技の地区大会となり、3月末現在、下記の式典と競技の日程及び会場が決定しています。その他の競技も順次、実施日程と会場の確定を進めていく予定です。詳細については、ホームページやメールマガジンなどでの情報公開をお待ちください。

- 6月 7日(日) 陸上競技(東京都障害者総合スポーツセンター)
- 6月13日(土) 開会式、バレーボール、バドミントン(港区スポーツセンター)
- 6月21日(日) ボウリング(東京ポートボウル)
- 11月1日(日) バasketボール(国立オリンピック記念青少年総合センター)

お知らせ

新型コロナウイルス感染症の影響により各種イベント、プログラムを中止しています



2020年3月に入り、学校の一斉休校の要請などで社会を揺るがせている新型コロナウイルス感染症(COVID-19)ですが、スペシャルオリンピックス活動に対する影響も大きくなっています。

なかでもショックだったのは、2月21日(金)～23日(日)に開催予定だった「スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム・北海道」の中止といえるでしょう。

主催のスペシャルオリンピックス日本(SON)からは、さまざまナリスクを想定した苦渋の決断である、という発表がありました。3月に入ってから北海道での感染拡大を見るにつけ、SONの判断が最善であったことは間違いありません。

さらに、SONは活動に参加する人がSOの理念や活動方針、特徴などについての確に理解し、

より充実した活動を行えるよう、また、一人でも多くの方にSOを支援していただけるよう実施している「コーチクリニック」の開催も当面取りやめました。

SON・東京においても同様に、日常プログラムおよびイベントの中止を決めました。期限は当面4月末日としていますが、COVID-19の拡大状況に応じては、今後延長される可能性もあります。

いずれにしても、活動を楽しみにしているアスリート、サポートに尽力いただいているボランティア、物心共に支援いただいている皆さまにおいては、非常に残念な事態となっていますが、今はただ事態の収束を祈るしかありません。ご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願いたします。

特別支援学校の生徒などを対象に、チアダンスの体験会を開催



体験者たちも、新しい振り付けと一緒に練習

12月15日(日)、東京都障害者総合スポーツセンター多目的室にて、ダンスプログラムが「チア」の体験会を実施しました。

SON・東京では、2019年4月から「ダンスプログラム」としてチアに取り組んできました

たが、さらに多くの女子アスリートの参加をめざし、特別支援学校などにも広く声を掛け、体験会の開催へと至りました。

その甲斐あって、SON・東京に未登録の方5名、登録済の初参加アスリート3名が来場し、総勢34名という、いつも以上に賑やかなプログラムとなりました。

特に、今回は日本チアダンス協会(JCDA)が全面協力。チームJCDAの皆さん11名が、参加者の前で見事なパフォーマンスを披露してくれただけでなく、アスリートたちの中に入って、手取り足取りのサポートをしてくださいました。未登録・初参加のアスリートたちもきっと、チアの楽しさを実感できたと思います。

スペシャルオリンピックス国際本部では

昨年、コンペティティブ・チアを準公式競技として承認しました。今年には日本でも、夏季競技の1つとして正式にスタートするかもしれません。SON・東京は、まさにその先陣を切っているわけです。今後ますます活発な動きを見せてくれることを期待しています。



チームJCDAのパフォーマンスに、アスリートも釘付け

アスリートとコーチが一丸に! 東京都卓球連盟リーグ戦出場

卓球プログラムのアスリートとコーチが、2日間にわたって、東卓(東京都卓球連盟)リーグ戦に出場しました。初日の9日は女子、11日は男子チームの試合です。一般の人たちとの対戦でも、日頃の練習の成果を存分に発揮することができました。

■2月9日(日)

2019年度後期リーグ戦:女子6部

アスリート1名とボランティア4名に監督とコーチで参加した団体戦は、5チームのリーグ戦で4戦し、2勝2敗。ボランティアは、ダブルス戦・シングルス戦で勝利しました。また、今後の練習の課題(スピードサー

ブへの対応、練習での実力を試合で発揮するように攻めへの意識向上)が見つかり、未来につながるものを得ることができました。

■2月11日(火・祝)

2019年度後期リーグ戦:男子6部

アスリート2名とボランティア2名、ボランティアで監督兼任1名、コーチ1名が団体戦に参加。5チームのリーグ戦で4戦全勝という好成績を収めました。ただ、全勝したとはいえ、そのまま5部に上げられるわけではなく、連盟にて昇格判定が行われるとのこと。もちろん昇格の確度は高いと考えています。

なかでも、アスリートの伊藤翼さんはシン

グルス戦で4戦全勝。相当の自信を持ったようで、「4部で戦いたい」と上を目指す気持ちを語ってくれました。



左から中井さん、伊藤さん、中村さん、杉浦さん、藤田さん

14回を数える支援イベント「SON・東京支援チャリティーゴルフ大会」開催

9月の台風で残念ながら延期となっていた「第14回スペシャルオリンピックス日本・東京支援チャリティーゴルフ大会」が、12月23日(月)に我孫子ゴルフ倶楽部にて開催

されました。

当日は、朝方まで降っていた雨が嘘のように晴れ、全コースに太陽が降り注ぐという、最高のコンディション。すべての方が、

気持ちの良い1日を過ごされたと思います。

チャリティー金は、開催経費を差し引いた後、SON・東京にご寄付いただきました。参加された皆様、ありがとうございました。

アルペンスキープログラム、12月には日帰りで、1月と2月には合宿でトレーニングを実施

今冬は暖冬でした。昨年末の12月15日(日)午前7時。日帰りスキーの参加者を乗せたバスは新宿駅西口から一路、高速道路を湯ノ丸スキー場へ向かいました。ですが、小諸インターを降りても、雪は見えず……。例年、12月の日帰りスキーはオープンしているゲレンデが一部ですが、今冬はとくに雪が少なく、ゲレンデまでは砂利道でした。

唯一、滑走可の第2ゲレンデを、レベル別に9班に分かれて、コーチの指導の下、初滑

り。首都圏から近く、人工降雪で早くから滑れるスキー場は混雑していましたが、1人の怪我もなく、トレーニングは無事に終了しました。

その後、今年1月18、19日に湯ノ丸スキー場で、2月1、2日にアサマ2000で、1泊の合宿を行い、アスリートとコーチ、そして応援のファミリーは、「冬季ナショナルゲーム・北海道」(2/21~2/23)の開催を心待ちにしていたのですが、残念ながら新型コロナウイルス

の影響で中止となりました。



今シーズンの初滑り。雪が少ない……。

MINATOシティハーフマラソン2019に参加しました

報告：陸上競技プログラム十条会場
坂口和隆コーチ

12月1日に開催されたMINATOシティハーフマラソン2019に、松尾拓海君の伴走として参加しました。港区の芝公園スタート、東京タワーでフィニッシュという都心コースで大変人気のある大会だけあって、参加人数も多くとても華やかな大会でした。

松尾君は、いつもSOの陸上で一緒に練習しているので、ある程度の走力があるの

は分かっていましたが、ハーフマラソンのような長距離は初挑戦とのことだったので、前半は抑え目のペースで入って中盤からペースアップしていきました。

15km以降はさすがにきつそうでしたが、弱音も言わず最後まで1歩も歩くことなく見事に2時間10分程度で完走を果たしました。素晴らしかったです！

このような大会への参加をきっかけにして、ランニングを好きになってもらえれば良いな～と思います。



左・松尾拓海さん 右・坂口和隆さん



初めてハーフマラソンに挑戦！

2019年12月1日、息子たち(松尾日出海・拓海)は、2人にとって初めての挑戦となる「MINATOシティハーフマラソン2019」に出場しました。

最初は、とても無理だとお断りしていたのですが、川原コーチの「今回は伴走者がいるのでチャンスですよ」という一言と、2人の「走ります!」という元気な言葉が、私の背中を押してくれました。と



左・松尾日出海さん 右・荒川人さん

はいえ、参加を決めてからも不安で一杯でしたが、黙々と練習に参加する2人の頑張る姿に勇気をもらいました。また、伴走してくださいとコーチの指導も支えになりました。

いよいよ大会当日。号砲が鳴り、2人は、伴走の坂口コーチと荒川コーチに声をかけてもらいながら、元気に走り出しました。私はなんとか10kmまで走ってくれたらと思っていたのですが、信じられないことに2人も見事完走。コーチに励まされながらゴールに入る2人の姿に、涙が止まりませんでした。「ありがとう!よく最後まで頑張ったね」と2人の背中に声をかけました。

ゴール後、達成感を味わい、心地よい疲労感からか、とても満足そうな2人の姿に、ハーフマラソン大会参加の機会をいただけたことを、心から感謝しました。2人に「ま

た参加しますか」と聞くと、嬉しそうに「走ります!」と返ってきました。これからも、2人が「MINATOシティハーフマラソン」のようなマラソン大会に参加することを励みに、走ることを楽しんで欲しいと思います。

アスリートの皆さんも、機会がありましたらぜひ一度「MINATOシティハーフマラソン」に参加してみてください。

ファミリー 松尾由紀子



ボランティアの 独り言

いろんな人が「いる」ことを自然に思えるようになりました

昨年からスペシャルオリンピックス(SO)の活動に参加し、アスリートをはじめ多くの方々に大変お世話になっています。近頃では、だんだんとアスリートと親しくなってきたこともあり、以前にも増して楽しく活動しています。時に自分がプレーすることに夢中になってしまうこともあります。そのくらいアスリートと一緒に熱くなってバスケットボールを楽しんでいます。

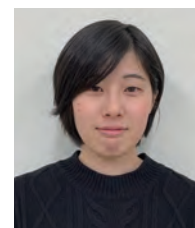
SOを通じたアスリートとの関わりの中で、私自身の「ハンディキャップ」に対する捉え方が変化してきているを感じています。今はいい意味で「いる」ことに気づかないといいますが、いろんな人が「いる」ことが自

然だと思えるようになりました。SOでのアスリートとの関わりやファミリー、コーチとのお話を通じて、自分の中の多様性が広がってきているのだと思います。

ユニファイド・バスケットボールのイベントでは、試合に勝ちたいと言っていたアスリートが接戦で負けた後、試合から戻ってくる仲間に対して「いい試合だった」と頑張りを讃える様子がありました。

SOの活動では、アスリート1人1人がそれぞれのペースと個性を認め合う様子が見られ、勝ち負けだけではないスポーツの良さや、一生懸命に取り組むことの大切さをあらためて感じることができました。

また、ただ活動を楽しむのではなく、目標に向けて成長するためのコーチのサポートやそれを温かく見守るファミリーの方々のつくる雰囲気の中での練習は、私自身もほっこりするような心温まる瞬間が多々あり、素敵な体験をさせてもらっています。



西村亜希子

北里大学大学院医療系
研究科感覚・運動統御
医科学群機能回復学修
士課程、作業療法士

アスリート：川原達也さん 父：川原宏之さん

私が長男に障害があることを知ったのは、本人が3歳の時です。私には知的障害に関する知識はほとんど無く、障害には様々な症状があるため、当初は自閉症とは認識していませんでした。

知的障害により知的な発育に遅れが生じることは理解していましたが、等差的に一定年数の遅れが生じるのであろうと考えていたところ、実際にはその遅れの年数・程度が等比的に拡大していくことを理解したときにはショックでしたが、今後一生長男に寄り添って生きて行こう、そのためには自分が長生きをしなければならぬと考えました。

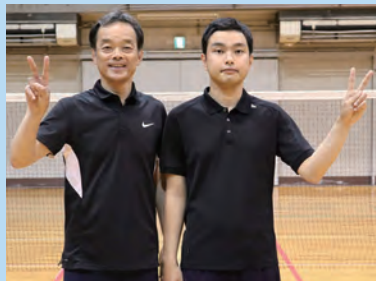
1996年4月から私がインドネシアのジャカルタに勤務することになり、会社に長男のことは伝えましたが、家族にも相談のうえ家族帯同で赴任することにしました。

長男がジャカルタに移り住んだのは4歳になる少し前で、現地のプレイスクールに通わせました。長男はインドネシア語を理解できませんが、もともと人との会話は得意ではなく、プレイスクールにはトランポリン等の遊具が充実していたこともあり、毎日通っていました。

今でもインドネシアの生活やインドネシア語の単語などの記憶が残っているようです。ジャカルタでは言葉や生活様式の違いなどにより、家族に苦労をかけたことがありますが、日本では経験できない海

ホップ ステップ ジャンプ Vol.24

継続することの大切さを感じています



川原達也さん ● 1992年生まれ 2005年SON・東京入会
参加プログラム：バドミントン バスケットボール 卓球
左：川原宏之さん 右：川原達也さん

外生活をしたことは良い思い出となっています。長男の日常生活における態度、挨拶、行動や癖については、もっぱら母親や学校の先生等に任せきりであったのが実態です。

私が行ったのは、休日に長男と一緒に外出をする機会を持つことです。幼い時から電車などの乗り物が大好き(鉄ちゃんです!)だったので、車で外出をしたり、操車場や駅に電車を見に行ったりしました。今でも「青春18きっぷ」を利用して二人で遠出をすることがあります。

長男は運動神経が良い方ではありませんが、体を動かしたり外出をすることは大好きなので、幼い時から水泳(現在も親子で水泳教室に通っています)や、スキー(この数年は行きたくない様です)に連れて行ったり、公園と一緒にボール遊びをしていました。SON・東京との出会いは、長男が13歳の時(2005年)にバドミントンとバスケットボールの代々木会場に参加をしたことです。この二つのプログラムは日程が重複しないこともあり、現在まで継続しています。

当初バドミントンは、シャトルをラケットに当てることも難しかった状況でしたが、現在は打ち合いをすると私の方が負かされるレベルになっており、継続することの大切さを感じています。バスケットボールはディフェンスや他のメンバーにパスをすることが苦手で、時間のルールが難しいため上達に苦労していますが、本人が最も好きなプログラムになっています。

SOに参加することで本人の技術が上達すればもちろん嬉しいですが、体力や健康を維持・向上でき、人とのコミュニケーションが得意でない本人が他のアスリート等と接点を持つ機会ができることが大変ありがたいと思っています。

今後も親子でSOのプログラムや水泳教室に継続して参加することで、二人の健康・体力を維持・向上し、親子で一緒に過ごす時間を確保していきたいと考えています。

事務局からお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大に備え、SON・東京の事務局は5月末までを試用期間として、下記の通り勤務体制を変更しています。

- フレックスタイム制度(コア・タイム11:00-16:00)を活用し、混雑ピークを回避した出勤を推奨します
- 在宅勤務制度を活用したりリモートワークに取り組みます

以上により、コア・タイム以外での連絡につきましては、電話対応ができない場合があることをご承知おきください。あわせて事務局へのご連絡・お問い合わせは、できるだけメールにてお願い申し上げます。

SON・東京オフィシャルスポンサー



株式会社クラフティは、OA機器&映像・音響機器の全国レンタル・リースの他、クラウドサービス、アプリ開発、撮影/配信スタジオ・Cafe運営・スクールリノベーション、ドローンスクールなど、さまざまな分野で万全のビジネスサポートを行う企業です。



SSKR NEWS LETTER とらいあんぐる vol.80

発行所：〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3丁目1番17号
ヴェルドゥーラ祖師谷102号室
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
編集元：認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・東京
編集人：岡松武司
編集スタッフ：SON・東京広報委員会/石橋泰介(デザイン)
定 価：100円(代金は会費に含まれています)

Special
Olympics
Nippon
Tokyo



認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・東京
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-75号室
TEL:03-6380-3135 FAX:03-6380-3136
E-mail:office@son-tokyo.or.jp
web:http://www.son-tokyo.or.jp
Facebook:www.facebook.com/specialolympicsnippontokyo

Update

登録アスリート数:1,876名
正会員数:1,019名
(2020年2月29日現在)